



2004年4月3日[土]—5月16日[日]

休館日：毎週月曜日（休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日、5月3日は開館）
開館時間：午前10時—午後6時（木・金は午後8時まで）入館は閉館の30分前
観覧料：一般1,000(800)円 学生800(600)円 中高生・65歳以上500(400)円（ ）は前売、20名以上の団体割引料金

東京都写真美術館 2階展示室
[恵比寿ガーデンプレイス内]

東京都目黒区三田1-13-3 Tel.03-3280-0099 <http://www.syabi.com/>
交通機関：JR恵比寿駅東口より徒歩7分

主催：(財)東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 毎日新聞社
後援：外務省 / 在日スペイン大使館
出品協力：スペイン・サラマンカ内戦資料館 / スペイン国立図書館 / 東京富士美術館
協力：JAL 日本航空
協賛：大塚製薬 / ニコン / ニコンカメラ販売 / JHI/EIDO / 日経エッセイ / ボンイマージュ

没後50年「知られざる ロバート・キャパの世界」展

Robert Capa's 50 Years After His Tragic Death Unknown World

「知られざる」没後50年
ロバート・キャパの世界展

20世紀最大の報道写真家として世界に知られるロバート・キャパ。
彼の没後50年を記念し、
キャパの知られざる素顔に迫る写真展を開催します。



キャパ(1913-54)は生涯、スペイン内戦、日中戦争、第2次世界大戦、中東戦争、インドシナ戦争と5つの戦争取材しました。

本展覧会は「キャパ」の名が世界にとどく出発点となり、その後の彼の生き方を決定づけたスペイン内戦に特に焦点を当てます。民兵の死の瞬間をとらえた《崩れ落ちる兵士》をはじめ、オリジナル・プリント83点をスペインのサラマンカ内戦資料館、国立図書館の協力を得て日本初公開します。これらの写真群はピカソの《ゲルニカ》同様、世界に衝撃を与えました。自らの意志で戦う者、戦争の破壊、市民の苦しみを見つめるキャパのまなざしは戦争の「正義」と「非情」を写し出し、生きる意味を問い、生きる勇気をかきたてました。

意外なことに、キャパが日本を訪れたことはあまり知られていません。毎日新聞社の招きで54年初来日、国内を撮影旅行中にインドシナ戦争の取材へ飛び、かの地で地雷に触れ亡くなりました。実はそれをさかのぼること18年前の36年、キャパは毎日新聞パリ特派員とともにニュース写真を撮っていました。毎日新聞社に保存されているこれらのオリジナル写真を初公開し、キャパと日本人、日本との関係に新しい光を当てます。

Robert Capa's Unknown World

50 Years After His Tragic Death



義《崩れ落ちる兵士》1936年9月5日(ロバート・キャパ撮影 スペイン・サラマンカ内戦資料館蔵)

1 《ロバート・キャパ》1951年(ルース・オーキン撮影 東京富士美術館蔵)

2 《女性の民兵》1937年(ロバート・キャパ撮影 スペイン・サラマンカ内戦資料館蔵)

3 《兵庫県尼崎市のうどん屋にて》1954年4月24日(毎日新聞社蔵)

4 《羽田空港からインドシナに向かうキャパ》1954年5月1日(毎日新聞社蔵)

5 《避難する人々》(ロバート・キャパ撮影 スペイン国立図書館蔵)

6 《フランス革命記念日の街の人々》1936年7月14日(ロバート・キャパ撮影 毎日新聞社蔵)

東京都写真美術館
東京都目黒区三田1-13-3 Tel. 03-3280-0099
<http://www.syabi.com/>

東京都写真美術館
恵比寿
恵比寿駅東口より徒歩7分
恵比寿ガーデンプレイス内